# 乗鞍岳の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

**火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。**
**噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。**

## ○ 活動概況

**・噴気など表面現象の状況（図１）**

乗鞍高原監視カメラ（乗鞍岳の東北東約７km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

**・地震活動（図２－①、図３）**

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

**・地殻変動の状況（図２－②～⑦、図４、図５）**

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。




**図１　乗鞍岳　山頂部の状況（10月29日、乗鞍高原監視カメラによる）**

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、名古屋大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

【計数基準の変遷】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 観測開始 | 2010 年 12 月 10 日 ～ | 2011 年 ４月 １日 | 三本滝上下動振幅 0.5μm/s 以上、S－P２秒以内 |
| 変更① | 2011 年 ４月 ２日 ～ | ４月 10 日 | 三本滝上下動振幅 0.5μm/s 以上、S－P１秒以内 |
| 変更② | 2011 年 ４月 11 日 ～ | 2013 年 10 月 31 日 | 三本滝上下動振幅 3.0μm/s 以上、S－P１秒以内 |
| 変更③ | 2013 年 11 月 １日 ～ | | 三本滝上下動振幅 2.0μm/s 以上、S－P１秒以内 |

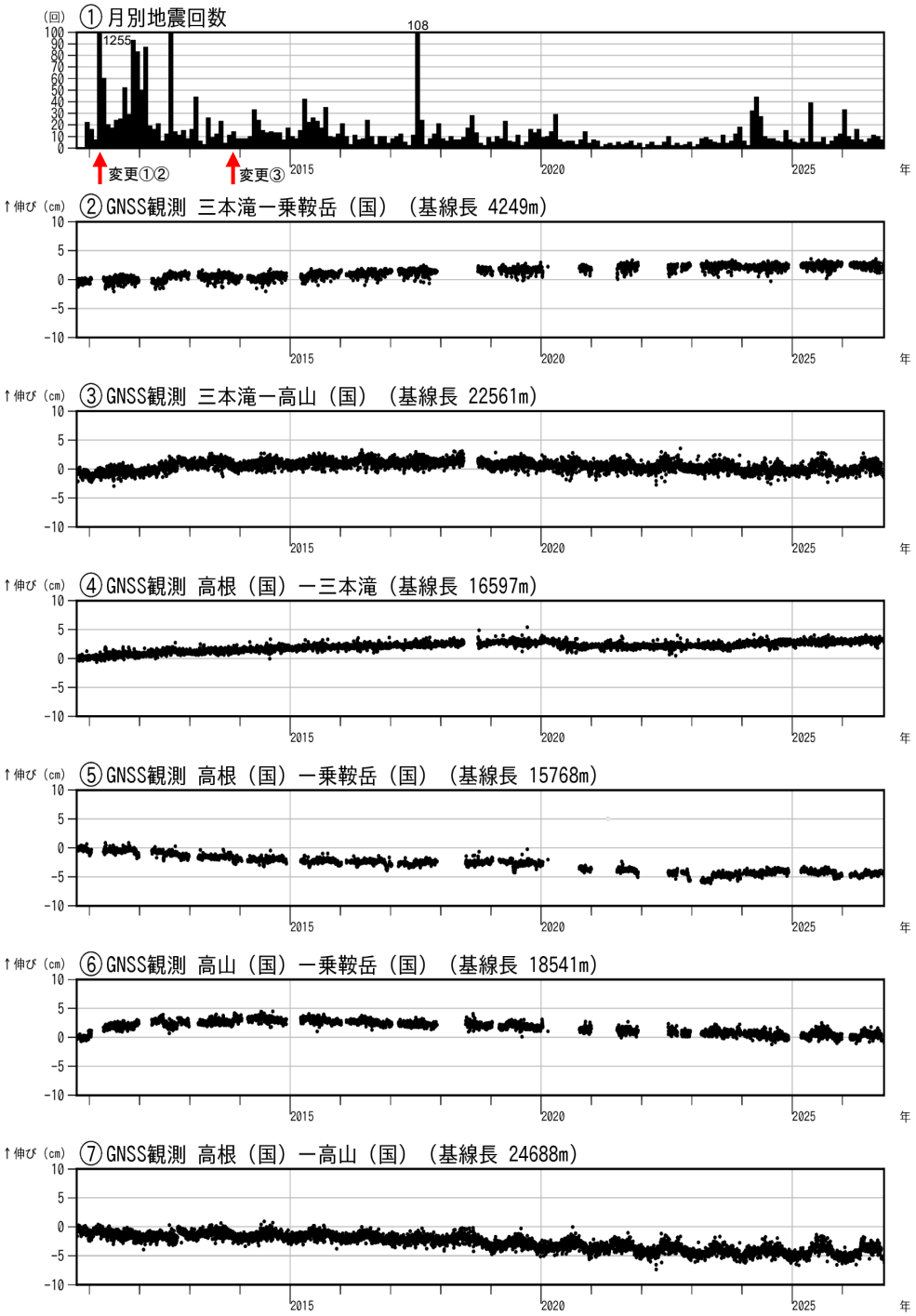



図２　乗鞍岳　火山活動経過図（2010 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日）

①乗鞍岳周辺の月別地震回数（2010 年 12 月 10 日計数開始）

②～⑦　GNSS 連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院

②～⑦は図５の GNSS 基線②～⑦に対応しています。②～⑦のグラフの空白部分は欠測を示しています。

・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。

・GNSS 観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

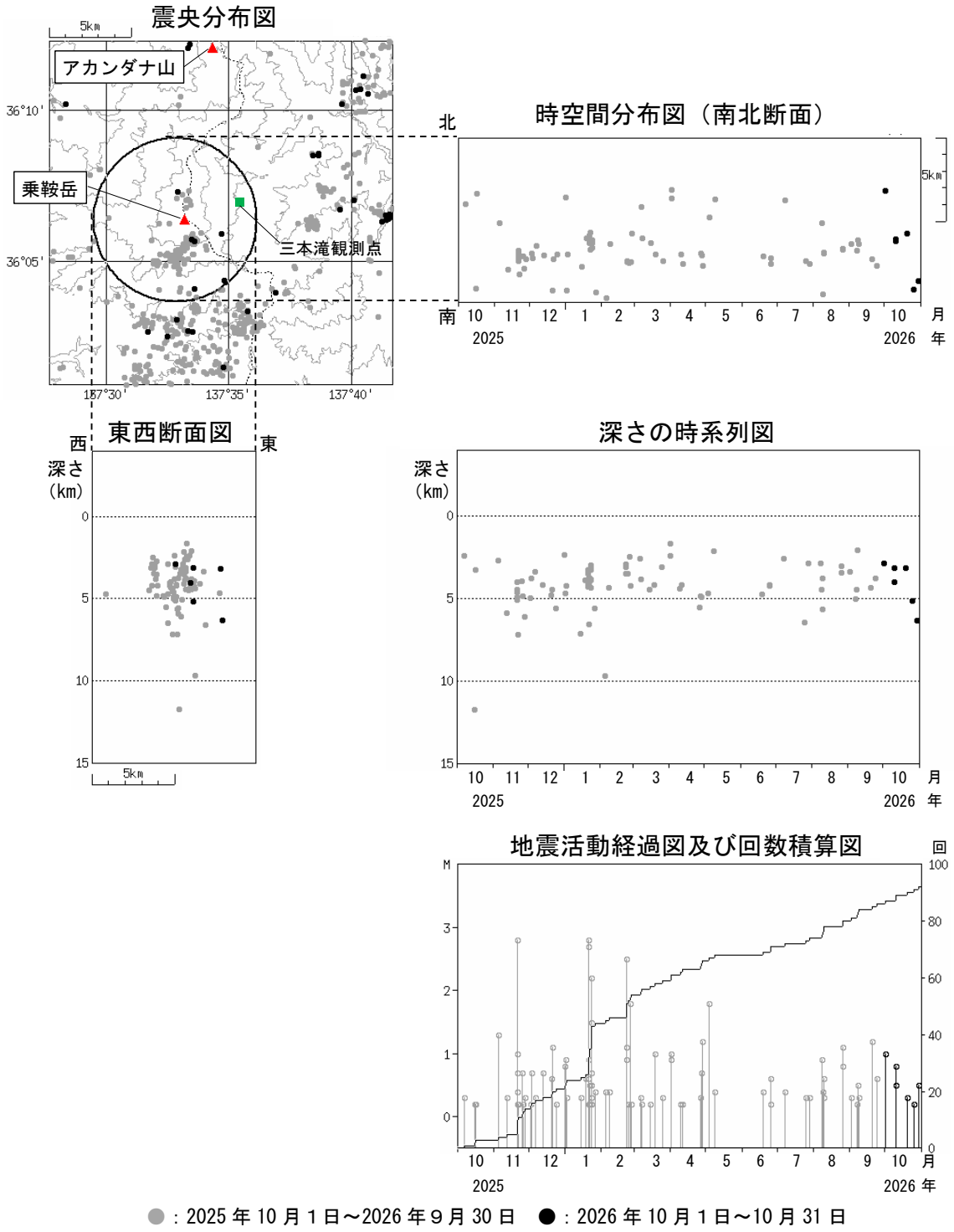



図３　乗鞍岳　広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2025 年 10 月 1 日～2026 年 10 月 31 日)

M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.2 以上の地震を表示しています。

広域地震観測網により、深さは全て海面以下として決定した震源を示しています。なお、地震観測点の標高を考慮する等した震源決定の手法を用いています。図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

東西断面図、時空間分布図、深さの時系列図、地震活動経過図及び回数積算図には、乗鞍岳付近（震央分布図中の黒線円の範囲）の地震を示しています。

・乗鞍岳付近の地震活動は、低調に経過しています。

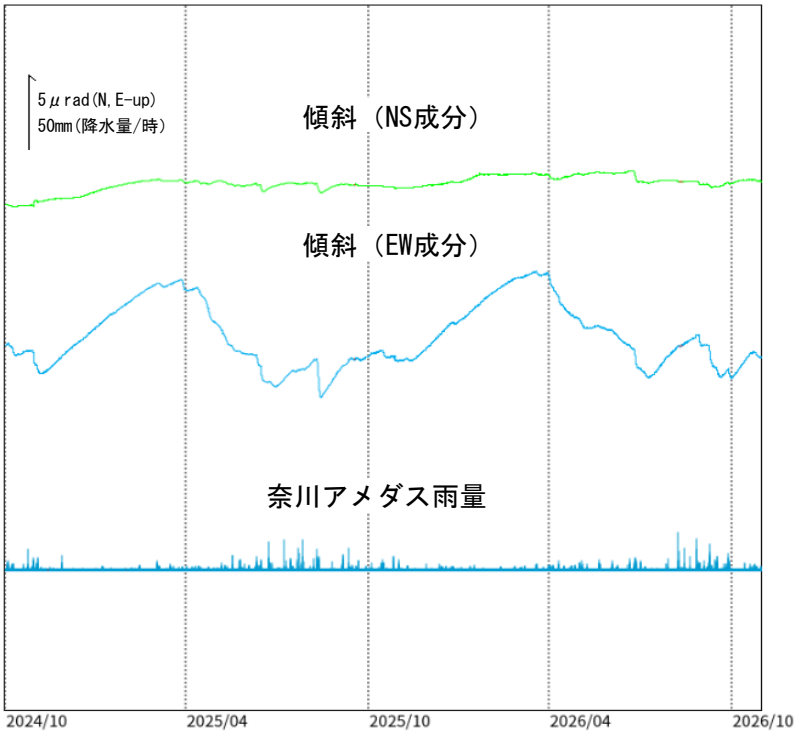
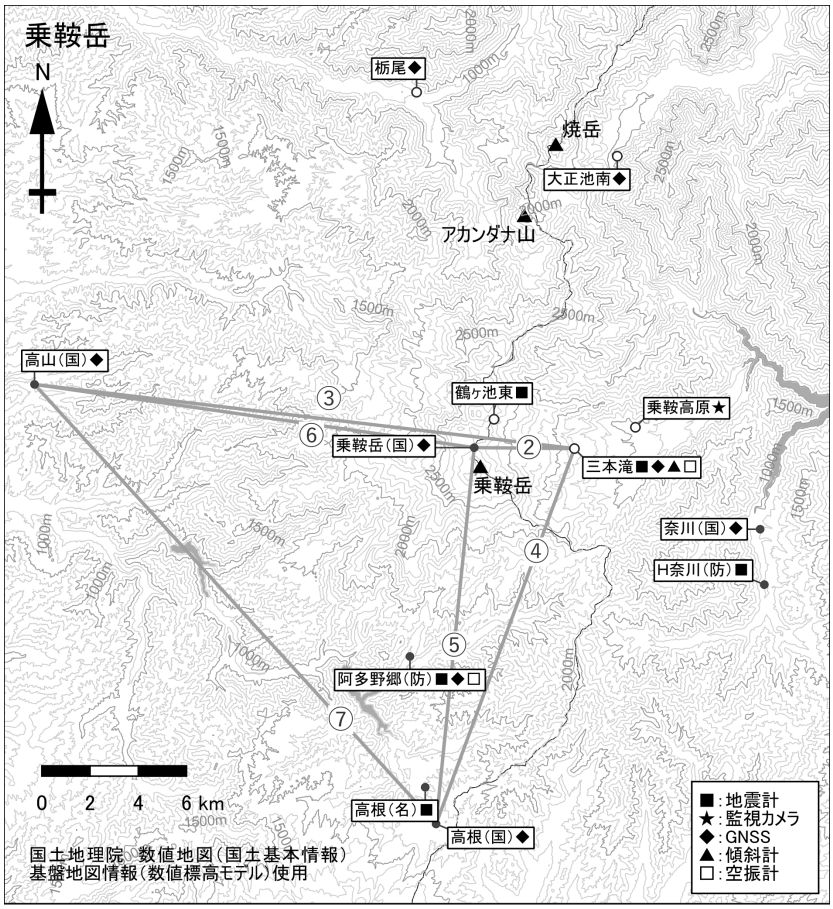



図４　乗鞍岳　三本滝観測点における傾斜データ（2024 年 10 月１日～2026 年 10 月 31 日）

・傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。




小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(名):名古屋大学

図５　乗鞍岳　観測点配置図

GNSS 基線②～⑦は図２の②～⑦に対応しています。